

北海道地区自然災害科学資料センター報告 Vol. 38
 災害記録：令和5年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

No.	年月日	災害名	被害概要
1	2024年3月3日	利尻山アフトロマナイ川で発生した雪崩	2024年3月3日12：35ごろ、利尻山アフトロマナイ川左岸側標高310-650mの東北東向きの斜面にて、バックカントリースキーをしていた8名パーティーのうち7名が雪崩に巻き込まれ、3名が埋没した。そのうち1名が全身圧迫により死亡した。雪崩の概要は面発生乾雪表層雪崩、雪崩幅130m、発生区から雪崩の末端まで標高差340m、雪崩長さ700mであった。調査の結果、雪崩が発生した斜面では2月12～20日までの暖気と降水、その後の気温0℃以下による融解再凍結に伴いざらめ雪の硬い表面が形成されたと推定された。その上に堆積した不安定な積雪層が雪崩層となったものと考えられた。雪崩最上部の破断面は、尾根の風下側に吹きだまる形で堆積したこしまり雪層が破断したものであった。
2	2024年3月11日	羊蹄山北側斜面で発生した雪崩	2024年3月11日午前11時10分ごろ、羊蹄山北側斜面で雪崩が発生し、バックカントリースキーをしていた6名パーティーのうち3名が雪崩に巻き込まれ、2名が死亡した。雪崩の概要は面発生乾雪表層、雪崩幅10-20m、発生区は標高1650m付近、堆積区は標高650m付近で標高差1000m、雪崩長さ約2000mであった。調査の結果、雪面からの深さ17-19cmに硬度の低いこしまり雪の弱層1、雪面からの深さ48cmのこしもざらめ雪の層と降雪結晶の弱層2が観測され、スキーカットテストから弱層1がこの雪崩の原因と考えられた。

※委員から任意の報告分であり、全ての災害を記録したものではありません。